



トナカイに “トナカイらしい暮らし”を —放牧飼育の歩みと継承—

1

2013年～2020年

飼育管理方法の見直しから始まったトナカイの放牧飼育

飼育展示担当 主席主査 柴田 典弘

大森山動物園では、2013年からトナカイの飼育管理方法を見直す取り組みを進めてきました。

まず、トナカイ飼育の課題であった歯の摩耗対策として、ルーサン(アルファルファ)を多めに与え、葉の部分のみを選んで採食させる管理へと切り替えました。これに加え、樹葉を用いた給餌や、自由採食を目的とした園内散歩(リード装着)も始めました。これらの試みにより、痩せていた個体の状態が改善するなど、展示舎外でのケアの有効性が確認されました。



自由採食を目的とした園内散歩

また、暑熱対策として、冷凍ペットボトルやスプリンクラー、濡れタオルを用いた気化熱冷却を試みました。それでも体温が上昇する個体が多いため、原因を調査したところ、「サシバエの吸血による走り回り行動」が大きく関与していることが分かりました。この行動が十分な休息を妨げ、体温上昇を助長していたのです。

サシバエ対策としては、2014年から虫よけスプレーの使用を開始しました。高い効果は確認されたものの、持続時間が短いため、より根本的な改善策として、トナカイの野生環境に目を向けました。トナカイは水とともに生きる動物です。そこで、トナカイを園内の塩曳潟に放牧し、自発的な遊泳によってサシバエを避けるという発想に至りました。

初めてトナカイを連れて塩曳潟に出向いたのは2014年10月でした。オスのルドルフには水を怖がる様子が一切なく、リードをつけてはいたものの、水の中に平気で入っていくことが確認されました。翌2015年にはメスのサクラを塩曳潟に連れて行ったのですが、リードを外した直後に遊泳し始め、非常に驚かされました。後に、サクラの行動調査をしたところ、まだサシバエ対策が解決していなかった展示舎では15分程度だった休息が、放牧場では最大2時間30分まで延びる等の劇的な変化も見られ、放牧による効果は想像以上でした。それから、最長4か月間の連続

放牧にも成功し、こうした取り組みが評価され、2019年にはエンリッチメント大賞をいただくことができました。

こうした試行錯誤の一方で、2018年、サシバエによる行動の変化について共同研究していた岩手大学から、牛用の外部寄生虫駆除剤がサシバエに対しても高い効果を持つという情報が寄せられました。この駆除剤の使用により忌避効果は平均4日間続くようになり、走り回る行動も消失し、放牧に依存せずに管理できる環境が整いました。

この頃、展示舎と放牧場の管理を1人の担当者が行うことの厳しさを踏まえ、この手法を次世代に継承すべきかどうか葛藤していました。放牧という「完成された結果」を継続させることも大切ですが、それだけでは作業の大変さだけが際立ってしまいます。一番大切なことは、展示舎内でトナカイを健康に飼育する技術であり、その経験から導かれた手段の一つが放牧でしたが、2020年のシーズン終了をもって一旦中止する決断をしました。



2014年から開始した塩曳潟での遊泳



牛用の外部寄生虫駆除剤の使用



2

2022年～

技術と想いを継承。5年ぶりに放牧飼育を再開

飼育展示担当(動物専門員) 黒石 涼太

私は2022年からトナカイの担当となりましたが、実はその時からトナカイを放牧してみたいと考えていました。痩せている個体や高齢の個体もいたため、体調管理の観点からも、自由に採食できる環境が必要だと感じていたからです。また、なにより放牧され、のびのびと過ごす姿こそがトナカイらしいと強く思っていたからです。とはいえ、いざ放牧を実現しようと考え、準備や日々の管理の大変さ、危機管理まで含めた課題の多さなどが脳裏に浮かび、自分に放牧飼育ができるのかと不安でした。同じ担当の柴田主席主査からも「簡単なことではない」と聞いていたので、なかなか言い出せずにいました。

そんな中、担当になって4年目となる今年の班ミーティングで、意を決して「トナカイの放牧をしてみたい」と切り出しました。すると、「班全体で協力するからトライしてみても」と周囲から背中を押してもらうことができ、不安は消え、一気に前向きな気持ちへと変わりました。

柴田主席主査と現状や課題を再確認しつつ、周りのスタッフからのサポートも得ながら準備を進め、1か月で放牧場を整備しました。そして、2025年7月8日、5年ぶりにトナカイの放牧を再開しました。水に入って泳ぐ姿や、クワ等の枝葉を夢中で食べる様子を目の当たりにして、本当にやってよかったと心から思いました。この日、柴田主席主査から「技術だけでなく、思いまで継承できた

ことが何よりうれしい」と言われました。

放牧飼育への挑戦は、トナカイにとってより良い環境を考える日々の試行錯誤を積み重ねた先にあったものの一つです。これからも動物たちのためにできることを考え、前に進んでいきたいと思っています。



5年ぶりのトナカイの放牧・遊泳(2025年7月)



トナカイ放牧場の整備